

同時資料提供
大阪科学・大学記者クラブ
大阪教育記者クラブ
南大阪記者クラブ
関西レジャー記者クラブ

新春ミニ展示「辰年展」 ～竜にちなんだいろいろな生き物たち～ を開催します

2024年（令和6年）は辰（たつ）年。令和6年1月5日（金）～1月28日（日）の間、大阪市立自然史博物館本館出入口付近の展示コーナーにて、毎年恒例の新春ミニ展示「干支展」を開催します。「辰年」に関連して、「たつ」「りゅう」にまつわる様々な標本を展示します。

■開催概要

1. 名称：新春ミニ展示「辰年展」～竜にちなんだいろいろな生き物たち～
2. 会期：令和6年1月5日（金）～1月28日（日）
3. 開館時間：午前9時30分～午後4時30分（入館は午後4時まで）
4. 休館日：月曜日（ただし1月8日は開館）、1月9日（火）
5. 場所：大阪市立自然史博物館 本館1階 出入口付近
〒546-0034 大阪市東住吉区长居公園1-23
TEL:06-6697-6221（代表） FAX:06-6697-6225
地下鉄Osaka Metro「長居」駅下車3号出口・東へ800m
JR阪和線「長居」駅下車東出口・東へ1,000m
ホームページ：<https://omnh.jp/>
6. 観覧料：常設展入館料（大人300円、高大生200円）
※中学生以下、障がい者手帳など持参者（介護者1名を含む）、大阪市内在住の65歳以上の方は無料（要証明）。30人以上の団体割引あり。

■主な展示

※これらの写真は広報目的のみご利用いただけます。ご希望の方は、下記までお知らせください。



<タカクラタツ（ヨウジウオ科）>

日本沿岸域で広く見られるタツノオトシゴの仲間、この標本は大阪湾の底びき網漁で採集されました。タツノオトシゴの仲間は、鱗が変化した骨板で体が覆われており、魚とは思えないような姿形から「龍の落とし児」と呼ばれるようになったのでしょうか。「タカクラ」というのは人の名前で、新種記載に用いられた標本の採集者に献名されたものです。



<ホソオチョウ（アゲハチョウ科）>

Dragon swallowtail butterflyという英名を持ちます。竜の皮膚のような模様と竜の尻尾のような細長い尾状突起で、いかにも「ドラゴン」の雰囲気があります。中国大陸に分布しますが、日本でも外来種として発生している地域があります。ウマノスズクサを寄主とし、成虫は緩やかに飛び回ります。



<リュウノヒゲモ（ヒルムシロ科）>

汽水性の沼や水路に生育する植物です。茎も葉も糸のように細長く、これを「竜の髭」に見立てて名前がつけられました。水中にたなびく葉を見ると、髪の毛のようには見えますが、これを竜の髭と表現したのは素晴らしいと思います。



<竜骨（ゾウなどの骨）>

かつてゾウなどの化石は竜骨と呼ばれ、薬として使われてきました。正倉院に保存されている資料のなかにも竜骨があります。竜は想像上の生き物ですが、骨を抜いて成長すると考えられており、そのため骨が地中に埋められると考えられたそうです。1811年に小原春造が竜骨はゾウの歯や骨であると明らかにしました。展示物はトウヨウゾウの下アゴのレプリカです。岡山県下津井沖海底から採集されたものです。

■広報に関する問合せ

大阪市立自然史博物館 総務課 広報担当

TEL : 06-6697-6222 FAX : 06-6697-6225